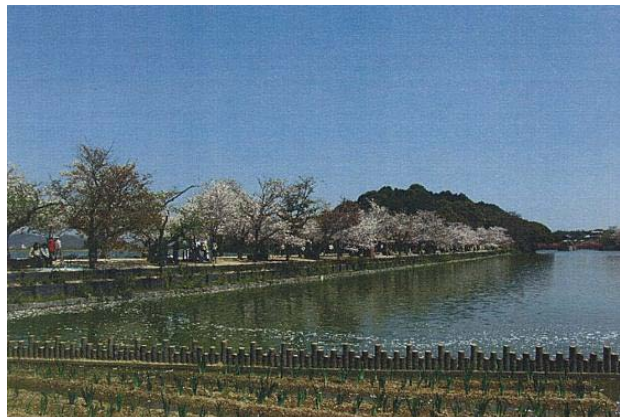


宮池

(みやいけ)



全景



亀島にかかる橋

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県さぬき市

□ため池の特徴

宮池は、現在も地域の水田100haを潤すため池であり、同時に、さぬき市南部の県立亀鶴公園の中核的な存在であり、春は桜の名所となり、6月には菖蒲祭が行われるなど年間を通じ地域住民のオアシスとして多くの人々が訪れる場所となっています。

周囲には明神丘、女体坂、小松原等の丘陵地帯や八幡古墳群、池中央には亀島古墳群があり「さぬき百景」に選ばれています。

池は、宇佐八幡神社の正面にあたるところから、八幡池ともいわれており、その起源は、正平19年(1364年)四国管領の細川頼之が、東讃六都の農民に命じ、宝蔵院の寺社領用水として築造したところにあります。(「宝蔵院古歴記」には、「三月十四日、長尾八幡池始細川右馬守為寺社領用水大内、寒川、三木、山田、香川人歩之」とあり、「讃岐国大日記」には、四月二十九日完工とあって、大工事が一ヶ月余りで完成した故事になっています。)

関連情報

讃岐のため池誌

(編集) 讃岐のため池誌編さん委員会

(発行) 香川県農政水産部土地改良課

久米池

(くめいけ)



全景



地元小学生によるアサザの植生



ため池の概要

□ため池の所在地

香川県高松市

□ため池の特徴

久米池は、1700年頃に造られたため池で、約100haの農地を潤す水源となっています。南側にたたずむと、池面に屋島が逆さに映る「逆屋島」が見え、風情ある景観は「新さぬき百景」に選ばれています。

また、絶滅危惧種であるアサザが現存しており、アサザの生育環境を守るための工事や、近くの小学生によるアサザの苗の植栽など、地域一体となってアサザを守るための努力が行われています。

こうした活動は、周辺自治会、小中学校等からなる環境保全組織(「アサザの里」・久米池)によって行われており、12の自治会、3つの小中学校が受け持ち地区を決めて除草、清掃、花壇の手入れを続けています。

その活動は、環境保全功労者等環境大臣賞を受賞しています。

関連情報

讃岐のため池誌 (編集) 讃岐のため池誌編さん委員会
(発行) 香川県農政水産部土地改良課

H15.4.17 四国新聞「絶滅危惧の水草 アサザを守ろう」のタイトルで、近隣小学生による移植作業の状況が掲載されました。

平地

(へいけ)



全景



乙女の像

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県高松市

□ため池の特徴

平地は語呂が「平家」と同じで、讃岐国大日記等には、治承2年(1178年)、平清盛の命で阿波民部田口成良が築造したことが記されています。

平地には、堤を築いても築いても押し流されるなど、容易に堤が完成せず、人柱を立てるとよいというお告げがあり、若い娘を人柱に立ててようやく完成したという悲しい逸話が残っています。(※関連情報参照)

平地を見下ろす北堤には、人柱となった乙女の霊を祀る像が立っています。

現在の平地は、高松市南部の農地125haを潤しています。

池の堤防は高松市を一望できる高台にあり、明治39年には堤防上に競馬場が造られ、毎週日曜日に草競馬が行われ、多くの出店が並び賑わっていました。昭和に入って競馬は廃止され、ベルトパークが整備されるなど、親水空間として住民の憩いの場となっています。

関連情報

人柱伝説

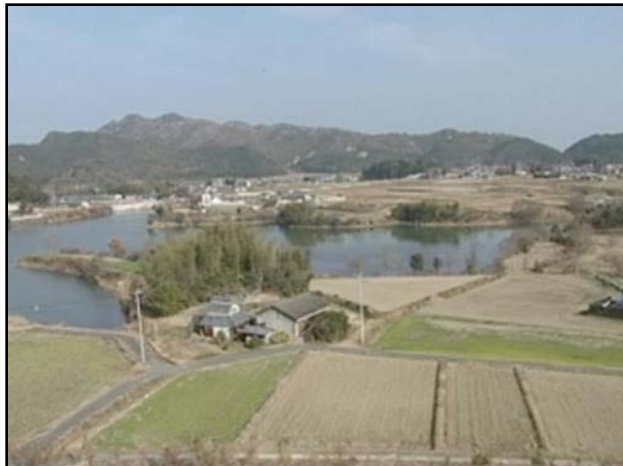
治承2年(1178年)、阿波民部田口成良が平清盛に池の築造を命ぜられました。この池の堤は何年もかかって築いていましたが、何度築いても堤が押し流される難工事となりました。その際、東にある雌山からチキリを持った女が降りてきて、このようなお告げをしました。「この池はたびたび堤がきれていて、長くは持たない。人柱によって解決するであろう。」

住民達は話し合いによって人柱を決めることができなかったので、翌朝一番早く堤を通りかかった者を人柱とすることにしました。翌朝チキリを小脇に抱えた女が近づいてきたので、捕らえて無理に人柱として堤防を築き、完成しました。その後、堤と雌山の岩の間から流れ出る水の音が、「いわざら、ござら(言わなければよかった。来なければよかった。)」と聞こえるそうです。

※チキリ……機織りの道具のひとつ

宮奥池

(みやおくいけ)



全景



貯水池

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県東かがわ市

□ため池の特徴

宮奥池は、鎌倉時代末の延慶3年(1310年)に、別宮八幡の御供田の用水並びに放生池として築造されました。

ついで生駒藩政時代の文禄4年(1595年)の頃に、白鳥村五人役組らの請願がかない、別宮八幡宮の社地を拓いて放生池を拡張、1643年に高松藩初代領主松平頼重が代官矢延兵六に命じて池普請を行い、現在の形となりました。

宮奥池は、別名「別宮池」とも呼ばれており、池の北堤に建立されている「宮奥池之碑」には、築造から約700年の歴史を有していると記されています。

昭和53年には香川用水からの導水を受け、当地域の長年にわたった用水不足も解消しました。現在、宮奥池の水は白鳥上地区内の田畑55haに導水されています。

関連情報

讃岐のため池誌

(編集) 讃岐のため池誌編さん委員会

(発行) 香川県農政水産部土地改良課

新池

(しんいけ)



遠景



ひょうげ祭り

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県高松市

□ため池の特徴

高松藩では、松平頼重が領主となった直後の正保2年(1645年)の大干ばつの後、頼重自らが開拓地を見つけ、藩の事業として新田を開拓、その水源として大小406もの池を築造しました。

新池もそのうちの1つといわれ、頼重の命によって、矢延平六が1669年に築造しました。

高松藩は頼重の時代に石高が16万970石あまりありましたが、二代頼常の貞享年間には3万3029石の新田開発、更にその後の頼恭の元文時代にも新田が増加し続け、農業用水の水源として新池の果たす役割が大きくなっていきました。

現在では地域の主要な水源として150haの農地を潤しています。高松市の農業の礎となった新池を築造した功績をたたえ、高塚山山頂の新池神社に平六が祭られています。

新池神社では、水への感謝と豊作を祝う「ひょうげ祭り」(※関連情報参照)が毎年9月に行われ、池は、地元には欠かせない存在となっています。

関連情報

ひょうげ祭り: 「ひょうげとは、「おどける」とか「滑稽」とかいう意味で、ユニークな化粧と手作りの衣装をまとった人々が行列をつくり、区内を新池まで練り歩く、手作り感あふれる愉快的な秋の奇祭となっています。衣装は地元浅野地区の婦人会が、小道具は老人会がひとつずつ仕上げ、竹やワラで作った刀や弓、なすびやかぼちゃ、ずいきなどの野菜も活躍しています。」

小山池

(こやまいけ)



全景



堤体(東堤)

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県高松市

□ため池の特徴

小山池は1700年頃に築造されたとされ、現在は約24haの農地を潤しています。

香川用水の水が利用できず水源確保に苦労してきたこの地域では、ため池を整備するとともに、配水管網を整備し各所にバルブを配置することにより、水利用の効率化を図っています。

小山池では、地域住民、自治会等が小山池管理委員会を立ち上げ、アオコ、悪臭の防止及び定期的な池干しなどの管理を行っています。

また、近隣住民が遊歩道を朝夕散歩し、地域住民の憩いの場となっています。

関連情報

一の谷池

(いちのたにいけ)



遠景



貯水池

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県観音寺市

□ため池の特徴

一の谷池は、寛永16年(1639年)、西嶋八兵衛が東谷、中谷、南谷、へそ谷の4つの谷が手を広げたような形になっている場所を堤防で締め切り、完成させたといわれ、現在は、水田約330haのかんがい用水源として利用されています。

一の谷池が築堤された4つの谷の合流点は、大蛇が棲むという“じゃが淵”と言われ、工事は難航し、堤防を完成させるために人柱という悲惨な方法がとられたと伝えられています。

池の渚には、人柱を祭る「池の宮」が建立され、毎年、かんがい期の始まる6月には「池の宮祭典」が厳かに執り行われています。

一の谷池を核として観音寺市が整備した「一の谷池親水公園」には、遊歩道、ビオトープ、しょうぶ園、藤棚、トイレなどが設置され、休日には多くの人々が訪れる地域住民の憩いの場として活用されています。

関連情報

讃岐のため池誌 (編集) 讃岐のため池誌編さん委員会
(発行) 香川県農政水産部土地改良課

買田池

(かいたいけ)



遠景



遠景

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県善通寺市

□ため池の特徴

買田池は慶長18年(1612年)の築造とされ、それ以来、農民の手により幾度となく増築が繰り返され、現在の姿になっています。今も約550haの農地を潤しています。

元は満濃池の下池として築造され、当初「貝田池」と呼ばれていましたが、増築の際に2町歩の田地を買い取って池を拡張したことから、“買田池”と名付けられたとの由来があります。

増築工事の際には「地づき歌」に併せて堤が築かれたと言われてしています。

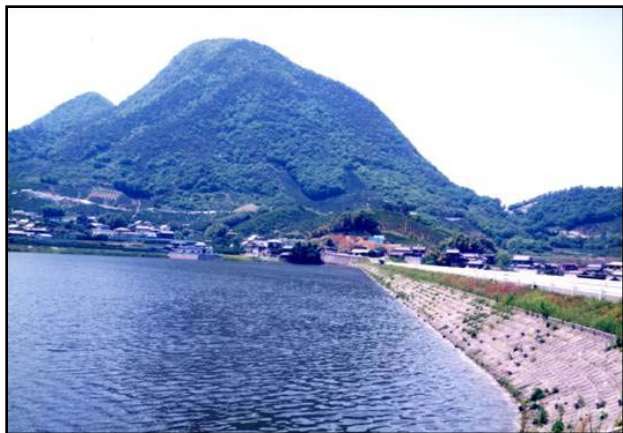
当時の歌や所作を後世に残すため、地元小学校の子ども達によって踊り継がれており、毎年8月2日に持宝院で行われている「ごんべい祭り」で奉納されています。

関連情報

讃岐のため池誌 (編集) 讃岐のため池誌編さん委員会
(発行) 香川県農政水産部土地改良課

大池

(おおいけ)



全景



讃岐国善通寺近傍絵図
(善通寺市教育委員会蔵)

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県善通寺市

□ため池の特徴

大池は、徳治2年(1307年)の日付がある「讃岐国善通寺近傍絵図※」にその位置が詳細に書き記されていることから、それ以前に築造されたと考えられています。

また、鎌倉時代末期に作成された「善通寺伽藍并寺領絵図」にも大池が描かれていることから、古くから農業用水の水源として重要な役割を果たしていたと考えられており、現在でも、善通寺市の水田約50haの主水源として利用されています。

東には讃岐富士と呼ばれている飯野山、北には弘法大師が誕生した総本山善通寺の五重塔、遠くには瀬戸大橋を望むことができる風光明媚なため池です。

関連情報

讃岐のため池誌 (編集) 讃岐のため池誌編さん委員会
(発行) 香川県農政水産部土地改良課

※関連情報

弘法大師の誕生の地である真言宗善通寺派の大本山善通寺に、明治40年(1907)京都山科区小野の髓心院から持ち帰ったものと伝えられる「讃岐国善通寺近傍絵図」が所蔵されていますが、その絵図には現在の大池の位置をはじめ善通寺の境内、水田とかんがい用のため池や用水路、社寺とその背後に立ちのぼる善通寺五岳の山々、民家の散在する有様などを極めて詳細に書き記したものとなっており、その当時の村の様子がきちんと分かるようになっています。